

令和6年度 広見中学校 前期 学校評価

基本方針	本校教育の歴史と伝統を継承し、地域と共に創意と活力ある学校づくりに努め、夢や目標を持ち、ふるさと「鬼北」に貢献することのできる、心豊かでたくましく生きる生徒を育てる。		
学校教育目標	郷土に誇りを持ち、たくましく生き抜く生徒の育成	若さあれ 力あれ 友情あれ	
目指す生徒像	若さあふれる生徒 学ぶ力のある生徒 心の美しい生徒	目指す教師像 元気で若々しい教師 指導力のある教師 仲間と支え合う教師	元気な学校 感じのよい学校 「ゲンカンが美しい学校」 美しい学校
本年度の重点	1 確かな学力を育てる教育の推進 2 生徒の健全育成 3 生き方に学ぶ「地域コミュニケーション科」の推進		

評価の方法・・・全項目(太枠内)について、下の4段階で評価する。ただし、自分が関わっていない項目や分からない(評価できない)項目は\を記入する。
評価の観点の良い方から、4-3-2-1の4段階評価で記入する。

重点	評価指標	評価の観点	評価	前期 ◇反省・◆提言	対象	時期	4	3	2	1	肯定割合	平均
1 「確かな学力」を育てる教育の推進	1 主体的に学ぶ授業づくり (取組指標) (100%、90%以上、80%以上、80%未満)	生徒が自己評価できる目当てを示した授業の割合	B	◇生徒や保護者の評価が教職員の自己評価と一致していない。生徒の自己評価と目標の明確化については、目標設定や自己評価に関する授業の一部が生徒に十分伝わっていない可能性がある。朝学習の取組については、10分間集中テストやE-ACTなどのテストが多く、年度当初の計画が実施できていないことから、目的や方法を再考しなければならない。 ◆生徒一人一人が自分の目標を明確にし、それを自己評価できるように、確認の場を設ける必要がある。授業の分かりやすさと学力向上の取組についても同様に、生徒が授業で感じる困難さを共有できる機会を増やし、個別にサポートできる機会を設けることが求められる。	教職員 生徒 保護者	前期	82.4	17.6	0	0	100	94.5%
		① 朝学習に真剣に取り組む、内容が定着している。				後期						
		② 分かりやすい授業に努め、生徒の学力向上に積極的に取り組んでいる。				前期	41.1	50	7.6	1.3	91.1	
	2 基礎・基本の徹底と学習習慣の確立 (取組指標) (90%以上、70%以上、50%以上、50%未満)	学習態度評価80点以上の授業日	B	◇教職員の肯定割合が100%である一方、生徒や保護者の肯定割合は低い。学習態度の高評価と学習内容の定着は必ずしも結び付いていない。学習態度評価が形骸化していないか、見直しをする必要がある。 ◆教職員は、学習態度の評価項目を中心とした声掛けや指導を継続的に行い、生徒の学習習慣の確立を図る。また、基礎・基本の定着を図るために、定期的な形成的評価を行う。さらに、保護者と連携しながら、自主学習への取組に対して個別に指導をする中で、家庭学習の充実を図る。	教職員 生徒 保護者	前期	76.5	23.5	0	0	100	87.6%
		② 学習内容をほぼ理解している。				後期						
③ 学習の基礎・基本を身に付け、授業の内容を概ね理解している。		前期				35.4	53.2	9.5	1.9	88.6		
3 コミュニケーション力を伸ばす教育活動 (取組指標) (90%以上、70%以上、50%以上、50%未満)	書く・話すことや表現することを取り入れた授業の割合	B	◇教職員の肯定率が93.8%に対し、生徒は65.8%となっている。書く・話すことや表現することを取り入れた授業展開ができて一方で、生徒が主体的に考え、自分の意見を積極的に発表することができていないと思われる。 ◆個々のコミュニケーション力を高めるために、ペアワークやグループワークを積極的に取り入れ、生徒同士が自分の意見を伝える機会を取り入れる。生徒が意見交換を行える環境作りも大切にしていく必要がある。	教職員 生徒	前期	43.8	50	6.3	0	93.8	79.8%	
	③ みんなの前で、自分の考えを詳しく説明できている。				後期							
4 3年間を見通した進路保障 (取組指標) (90%以上、70%以上、50%以上、50%未満)	自主学習ノートの提出	B	◇教職員の評価と生徒・保護者の評価に乖離が見られる。教職員の肯定率100%に対して、保護者は67.7%と低くなっている。各教科で出された課題を学校で行っている生徒もいる。自主学習ノートについては、全校で足並みを揃えて取り組むことができていない。 ◆生徒の家庭学習の取組状況を的確に把握する必要がある。そのために、家庭学習を記録に残したり、朝の会や終わりの会で確認をしたりするなど、家庭での学習状況を把握する手立てや工夫を学級単位で施すことが必要とされる。また、家庭学習取組状況の発信や啓発活動の手段として、学級通信や学年通信などを活用することも有効であると考えられる。	教職員 生徒 保護者	前期	73.3	26.7	0	0	100	80.0%	
	④ ほぼ毎日1時間30分程度の家庭学習の習慣が身に付いている。				後期							
	⑤ ほぼ毎日1時間30分程度の家庭学習の習慣が身に付いている。				前期	38	34.2	22.8	5.1	72.2		
5 ICT機器の効果的な活用 (取組指標) (90%以上、70%以上、50%以上、50%未満)	ICT機器を授業に取り入れ、能率的で分かりやすい授業づくりに努めている。	B	◇教職員の肯定率が88.3%に対し、保護者は54.3%と低くなっている。授業でICTを活用している様子は、保護者はなかなか見ることができない。また、端末の持ち帰りに向けた動きに時間がかかってしまったことも反省点である。 ◆授業でのICT活用に向けた研修を充実させ、ICTとのベストミックスを図っていく。また、個人端末を今後も継続的に持ち帰らせ、家庭学習で積極的に活用させていく。そのための課題作成や集計の方法などの研修も随時行っていく。	教職員 生徒 保護者	前期	47.1	41.2	5.9	5.9	88.3	72.4%	
	⑤ 個人端末やスマホ等のICT機器を家庭学習に役立てている。				後期							
	⑥ 個人端末やスマホ等のICT機器を家庭学習に活用している。				前期	27.8	46.8	20.3	5.1	74.6		
考察・改善	前期		後期									
	<p>【学校運営協議会委員より】 ○改善に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員と生徒・保護者の評価に差異がある。特に、コミュニケーション力を伸ばす教育活動の肯定率に差を感じる。人前で自分の意見を発表することや先頭に立って積極的に行動することを苦手とする生徒が多い。日々の活動でグループワーク等を多く取り入れて能力の向上に期待したい。 ・ 教職員は生徒一人一人の学習理解度について一層の目配りをしていくとともに、学習することの意義や目的を再確認して、保護者とともに学習を習慣付ける努力をしてほしい。 ・ 学力を高めるためのICT活用であることを念頭に置き、紙ベースでの学習の良さも失わないように、ICTを適度に活用するのがよい。 <p>○ 子供の学力を高めるためには、学校と家庭が両輪となって、子供に指導・支援していく必要がある。また、子供自身も自分の学習の仕方や学習の定着度をしっかりと分析する習慣を付けていかなければならない。</p> <p>○ ICTの活用がまだ不十分である。個人端末の持ち帰りを進め、家庭学習が子供にとって効率的に進められるとともに、家庭学習の習慣化を図っていきたい。</p>											

重点	評価の観点	評価	前期 ◇反省・◆提言	対象	時期	4	3	2	1	肯定割合	平均
2 生徒の健全育成	6 いじめを許さない、いじめに負けない仲間づくり (取組指標) (100%、80%以上、60%以上、60%未満)	いじめや不登校の未然防止・早期発見、的確な初期対応・組織的対応	B ◇いじめにつながるトラブルがなく、安心して学校生活を送ることができていると答えた割合が90%以上である。しかし、生徒の中に数人ではあるが、安心して学校生活を送ることができていない生徒がいる。人間関係によるトラブルについては、早期発見・早期対応を組織的に行っているところである。また、保護者は肯定的な意見が90%を占めるが、4の割合が50%程度である。 ◆教師が日頃から生徒の様子を観察し、早期発見、早期対応をしていくことが重要である。保護者が、自分の子どもが楽しい学校生活を送っていると自信を持って言えるように、連携を深めたい。	教職員	前期	72.2	22.2	5.6	0	94.4	93.0%
		いじめにつながるようなトラブルもなく、安心して学校生活を送ることができている。		生徒	前期	71.5	19.6	7	1.9	91.1	
		いじめにつながるようなトラブルもなく、楽しい学校生活を送っている。		保護者	前期	52.4	41	4.8	1.9	93.4	
	7 人としての生き方を考える道徳教育や特別活動の充実 (成果指標) (よくできている<<80%以上>>、できている<<70%以上>>、あまりできていない<<60%以上>>、できていない<<60%未満>>)	ボランティア活動(アルミ缶回収、朝のあいさつ運動、つぼみの会等)への参加の呼び掛け	C ◇積極的にボランティア活動に参加している生徒の割合が半分以下である。意欲的に活動している生徒と、消極的な生徒との二極化が見られている。 ◆ボランティア活動を促す呼び掛けをしていくことが必要である。また、定期的にボランティア活動の時間を確保することで、生徒のボランティアへの意識改革を図ってはどうか。	教職員	前期	22.2	61.1	16.7	0	83.3	65.7%
		アルミ缶回収や朝のあいさつ運動、つぼみの会等のボランティア活動に積極的に参加できている。		生徒	前期	23.4	24.7	36.1	15.8	48.1	
	8 共生の心を育てる特別支援教育と人権教育 (成果指標) (よくできている<<80%以上>>、できている<<70%以上>>、あまりできていない<<60%以上>>、できていない<<60%未満>>)	人権や共生を意識した指導への取組	A ◇昨年度と比べて、肯定的な意見が増えている。特別支援学級を中心に、個に応じた指導が展開されており、人権教育強調期間では、人権について学習し、生徒の感想でも、人権について深く考えている内容が多くあった。しかし、生徒の中には、共生の大切さを感じることができなかった生徒が数名いる。また、保護者の中には、一人一人を大切にしたい指導に満足していない保護者が数名いる。 ◆生徒の思いは理解しつつも、臨機応変に対応し、厳しくも温かい指導を心掛けたい。また、地域コミュニケーション科の学習とも絡めながら、地域の方との体験活動を通して、更に共生の心を育てていきたい。	教職員	前期	33.3	66.7	0	0	100	94.9%
		福祉体験活動などで、共に生きることの大切さを感じることができている。		生徒	前期	63.9	30.4	4.4	1.3	94.3	
		個性を尊重し、一人一人を大切にしたい指導に努めている。		保護者	前期	31.4	59	9.5	0	90.4	
	9 命を守る教育の充実 (成果指標) (よくできている<<80%以上>>、できている<<70%以上>>、あまりできていない<<60%以上>>、できていない<<60%未満>>)	自分の命を自分で守る力を育てるための指導	A ◇生徒の中には、川遊びをしている生徒が多い。危険を示す赤旗があるところでの遊びをしている生徒もいたことから、自他の命を守るために、どのように判断し、行動すればよいか考えさせる必要がある。 ◆学校生活の中で、学校の決まりや交通ルール順守の指導の中で、自ら考え、自分の命を自分で守る力を身に付けさせる指導をしていきたい。	教職員	前期	38.9	55.6	5.6	0	94.5	96.0%
		安全面に気を付けながら学校生活を送ることができている。		生徒	前期	79.7	17.7	1.3	1.3	97.4	
安全面に配慮した活動を行っている。		保護者		前期	37.1	59	2.9	1	96.1		
10 健全な食生活の充実 (成果指標) (よくできている<<80%以上>>、できている<<70%以上>>、あまりできていない<<60%以上>>、できていない<<60%未満>>)	食に関する正しい知識・望ましい食習慣を身に付ける指導	A ◇生徒が朝食をとることができている割合は、80%を超えているが、3割近くの生徒が4と答えていない。また、保護者の回答では4と答えている割合は40%を下回っていることから、偏食をしている生徒が多く、バランスの良い食事をとることの意識が低い。 ◆食育だよりを効果的に使い、朝食をとることやバランスの良い食事を心掛けることの大切さの指導を増やしていきたい。	教職員	前期	35.3	64.7	0	0	100	90.7%	
	毎日、朝食をとることができている。		生徒	前期	73.4	13.9	10.8	1.9	87.3		
	好き嫌いなくバランスの良い食事をとることができている。		保護者	前期	36.2	48.6	14.3	1	84.8		
考察・改善	前期	後期	<p>【学校運営協議会委員より】 ○改善に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> いじめについては、少しでも低い評価があるということは、注意・改善の余地があると捉え、慎重な取組を継続してほしい。 安心して学校生活を送れている生徒が9割以上と良い結果になっているので、引き続き学校と家庭が連携した取組をお願いしたい。 ボランティア活動について生徒の評価が低いのは、日常のちょっとした活動がボランティアになっていることに気付いていないのではないか。 広見中の生徒の挨拶はとにかくすばらしい。横断歩道等で停車した車への礼節も学生の模範となるものである。 <p>○ 本校生徒は概ね規範意識を持って生活できており、地域での挨拶や交通ルール遵守を心がけることができているようである。しかし、中には危険個所での遊びを繰り返す生徒もおり、命を守る教育を継続して行く必要がある。</p> <p>○ いじめについては早期発見を心掛け、毎月の「学校をよりよくするアンケート」や教育相談、チャンス相談等を通して、誰一人残さず充実した生活を送れるよう取り組んでいきたい。</p> <p>○ ボランティア活動については、生徒会を中心として自主的・自発的な活動になるように、また、生徒にとって達</p>								

重点	評価指標	評価の観点	評価	前期 ◇反省・◆提言	対象	時期	4	3	2	1	肯定割合	平均
3 生き方に学ぶ「地域コミュニケーション科」の推進	11 ふるさと「鬼北」を愛しむ活動への参加 (成果指標) (よくできている≪80%以上≫、できている≪70%以上≫、あまりできていない≪60%以上≫、できていない≪60%未満≫)	ふるさと「鬼北」の良さを感じる活動(地域行事、地域貢献活動等)への参加の呼び掛け	A	◇地域コミュニケーション科が新設され、1年生は地域に出向いて課題を見付けたり探求したりする地域学習、2年生は小学校へのUターン学習、3年生は青年団の方々と交流を行う「くるまざ♡ミーティング」や「福祉体験学習」の体験を行うことができた。これらの活動を通して、生徒たちはふるさと「鬼北」のよさを感じることができたのではないかと考える。教職員は、それぞれの活動の目的や意義をしっかりと理解し、より充実した活動になるよう計画を練っていく必要がある。 ◆これらの活動を通して、「鬼北」を愛し、「鬼北」を大切にすることを育てていくことが大切である。そして、生徒たちが自主的に地域の活動に参加し貢献できるようになることが、今後の大きな目標になってくのではないかと考える。	教職員 後期	前期	33.3	66.7	0	0	100	92.0%
		地域での体験活動や地域の行事等に積極的に参加することができる。				生徒 前期	37.3	42.4	17.1	3.2	79.7	
		地域での体験活動を積極的に取り入れ、地域行事への参加も奨励している。				保護者 前期	41	55.2	3.8	0	96.2	
	12 自己指導力の育成 (取組指標) (90%以上、80%以上、70%以上、70%未満)	挨拶の習慣や節度あるスマホ・ゲーム機の使用など、基本的な生活習慣が身に付いている。	C	◇4と答えている割合が、50%を下回っている。ゲーム機やスマホ等の通信機器の使用については、家庭での使用の仕方に課題があり、それが原因で生活リズムや体調を崩してしまう生徒、学習がおろそかになってしまっている生徒が増えているのではないかと懸念がある。 ◆ゲーム機やスマホ等の通信機器の使用については、スマホ・携帯安全教室などで学校でも考える機会を設けているが、使用方法やルールについて、今後も機を見て話をし、適切な利用について啓発していく必要がある。	教職員 後期	前期	27.8	38.9	33.3	0	66.7	74.6%
		気持ちの良い挨拶や節度あるスマホ・ゲーム機の使用など、基本的な生活習慣が身に付いている。				生徒 前期	44.9	41.8	11.4	1.9	86.7	
気持ちの良い挨拶や節度あるスマホ・ゲーム機の使用など、基本的な生活習慣が身に付けられている。		保護者 前期				21.9	48.6	24.8	4.8	70.5		
13 健全な心と体づくり (成果指標) (よくできている≪80%以上≫、できている≪70%以上≫、あまりできていない≪60%以上≫、できていない≪60%未満≫)	生徒の部活動への参加状況	A	◇生徒たちは、日々の練習に休まず意欲的に参加し、技能を高めることができた。そのため、大会やコンクール、作品制作において、成果を残すことができた。全ての項目で、肯定割合が高かったため、引き続き部活動を通じた人間形成の育成に努めていくことが大切である。 ◆健全な心と体づくりを進めていくために、部活動の果たす役割は非常に大きい。人間形成の場として、部活動がより一層充実していくように、各部でよい刺激を与え合いながら、よりよい活動を目指していく必要がある。保護者との連携も深めながら、部活動の運営に保護者の方々も協力していただく体制を整えていきたい。	教職員 後期	前期	50	50	0	0	100	98.4%	
	部活動に一生懸命取り組んでいる。				生徒 前期	80.4	15.8	2.5	1.3	96.2		
	部活動に一生懸命取り組んでいる。				保護者 前期	70.5	28.6	0	1	99.1		
14 地域コミュニケーション科の充実 (取組指標) (90%、80%以上、70%以上、70%未満)	地域コミュニケーション科の授業を通して、計画的にライフキャリア教育が実施できている。	A	◇教職員・生徒・保護者ともに、肯定的な意見が80%を上回っている。地域コミュニケーション科の活動を楽しく思っている生徒も多い。4と答えている割合は低いいため、生徒に適切な目標を提示し、より充実した活動にしていく必要がある。 ◆まずは教員が地域コミュニケーション科の意義を理解し、生徒が目標を持って活動できるように知見を深めていく必要がある。	教職員 後期	前期	41.2	58.8	0	0	100	91.8%	
	地域コミュニケーション科の活動は楽しく充実している。				生徒 前期	48.7	33.5	12.7	5.1	82.24		
	地域コミュニケーション科の授業に、子供たちは目標を持って取り組んでいる。				保護者 前期	25.7	67.6	6.7	0	93.3		
15 学校運営協議会の理解 (取組指標) (90%、80%以上、70%以上、70%未満)	学校運営協議会の役割・目的を理解している。	A	◇教職員・保護者ともに学校運営協議会の役割や目的を理解している。しかし、保護者の4と答える割合は20%程度のため、4を増やしていくことが好ましい。 ◆学校運営協議会の認知度が高まっているため、より良い学校にしていくために、学校運営協議会でどのように協議していくかが重要であると感じる。	教職員 後期	前期	40	60	0	0	100	96.2%	
	学校運営協議会の役割・目的を理解している。				保護者 前期	23.1	69.2	7.7	0	92.3		
考察・改善	前期		後期									
	【学校運営協議会委員より】○改善に向けて ・ 中学生生活は様々な活動や人間関係等で子供から少年(大人)への成長が目に見える密度の濃い時期と言える。今後も地域学習や部活動等、生徒相互が士気を高め合って更なる躍進を期待する。 ・ 地域行事への参加は、小学校から中学校に変わった段階で少なくなる印象がある。小学校と比較して中学校は部活動等で忙しくなり、地域行事に参加しにくくなるが、学校と地域が連携して切れ目のない関わりをしていきたい。 ・ ゲームやスマホに関しては、家庭指導の問題が大きいとは思いますが、生徒本人への自覚を促す学習を繰り返していく必要があると考える。 ・ スマホやゲーム機について、生徒自身が「問題あり」と自覚しているにもかかわらず、改められていないことに中毒性を感じる。 ○ 地域コミュニケーション科の新設に伴い、生徒の学習の場が地域に広がり、体験的・探究的な学習活動が計画的に実施されている。生徒が苦手とするコミュニケーション能力の育成につなげ、生徒一人一人のライフキャリア形成に深く関わる学習活動にしていきたい。 ○ スマホ・ゲーム機等の使用については、家庭での基本的な生活習慣の確立において重要な課題である。適切な使用の仕方やルール作りを生徒指導の観点から学校と家庭が協力して指導していかなければならないと考える。											

重点	評価指標	評価の観点	評価	前期 ◇反省・◆提言	対象	時期	4	3	2	1	肯定割合	平均
4 管理運営・働き方改革の一層の促進	16 危機管理能力の向上 (成果指標) (よくできている≪80%以上≫、できている≪70%以上≫、あまりできていない≪60%以上≫、できていない≪60%未満≫)	⑩ “危機管理能力”の向上に向けて、小さな変化を見逃さず、その日のうちに対応を始めている。	A	◇学校管理下で危険等が発生する前の予防対策や、発生した場合の教職員の対応は、誠実な対応ができている。 ◇生徒指導等に関しては、学校と保護者の連携を更に丁寧に早期対応に向けてフットワークを軽く取り組んでいく必要がある。 ◆生徒の命を第一に考え、自校を取り巻く安全上の課題やその対策について、訓練、評価、改善を繰り返し、教職員の危機管理能力の向上に力を入れたい。	教職員	前期	70	30	0	0	100	100.0%
	17 教育公務員としての資質・能力の向上 (取組指標) (100%、95%以上、90%以上、90%以下)	⑪ 「不祥事防止チェックシート」のマーク項目の割合	A	◇50代8名、40代4名、30代5名、20代9名の教職員構成であるが、全教職員が誠実で真摯に職務に従事し、不祥事根絶に向け日々心掛けている。 ◆教職員の資質・能力の向上を目指し、本年度からスクールコンプライアンス研修を実施し、職員研修を行った。	教職員	前期	90.5	4.8	4.8	0	95.3	100.0%
	18 働きがいのある職場づくりと働きやすい環境づくりや働き方改革の促進 (成果指標) (よくできている≪80%以上≫、できている≪70%以上≫、あまりできていない≪60%以上≫、できていない≪60%未満≫)	⑫ 仕事のやりがいを重視しつつ、時間外勤務が月80時間を超えないように意識改革に努めた。	A	◇管理職を含めるベテラン教職員が若年教職員への声掛けやサポートをすることでヤングリーダー、ミドルリーダーの育成と職場環境の構築を目指している。 ◆スクラップ&ビルドを意識し、地域コミュニケーション科を通して生徒を育てることと、昨年度まで行っていた企画会、各ミーティング、職員朝礼等の回数を減らしたり、会議の時短を実践したりし、生徒との時間を確保する。	教職員	前期	40	45	15	0	85	95.4%
	19 安全管理の徹底 (成果指標) (よくできている≪80%以上≫、できている≪70%以上≫、あまりできていない≪60%以上≫、できていない≪60%未満≫)	⑬ 事故やけがにつながりそうな行為への即時指導	A	◇通常の学校生活に加えて、登下校や部活動などで、安全指導・予防指導を行った。自転車登下校中の転倒事故があった。原因の究明、再発防止に努めたい。 ◆今後も事前指導や安全教育を徹底するとともに、教職員間の連携を密にすることで安全・安心な学校づくりに努めていく。また、地域や保護者からの情報を大切に地域危険個所の把握をしていく。	教職員	前期	47.4	52.6	0	0	100	100.0%
	20 危険個所の早期発見と早期対応 (取組指標) (100%、80%以上、60%以上、60%未満)	⑭ 安全点検や日常の目視による観察	A	◇毎月20日を安全点検の日として、全教職員が管理担当場所の点検を行っている。修繕等の対応個所については、管理担当職員や管理職が対応するとともに、教育委員会と連携した上で業者への依頼を適宜行っている。 ◆新校舎での快適な生活に甘んじることなく、生徒が安全・安心な学校生活を送れるよう日々、日常の安全点検を丁寧にやっていく。	教職員	前期	55	45	0	0	100	100.0%
	21 情報の共有と管理の徹底 (成果指標) (よくできている≪80%以上≫、できている≪70%以上≫、あまりできていない≪60%以上≫、できていない≪60%未満≫)	⑮ 個人情報に配慮した積極的な情報共有	A	◇日々の生徒指導情報等は、各種日誌に記録し情報共有できている。 ◇個人情報に関する書類は常に鍵のかかる書庫で保管・管理している。 ◆今後も情報管理を徹底し、情報漏洩がないように留意するとともに、生徒指導に関する情報については、学年部や部活動など適切な組織で情報共有し、安全・安心な学校づくりに努めていく。	教職員	前期	75	25	0	0	100	100.0%
	22 厳正な金銭処理 (取組指標) (100%、90%以上、80%以上、80%未満)	⑯ マニュアルを厳守した金銭処理	A	◇物品の購入において、担当の係から管理職へ、起案を通して管理体制が整っており、校内のルールに基づいた金銭処理が適正にできている。 ◇学期ごとに、すべての会計の監査を管理職が行い、適正に処理されていることを確認している。 ◆今後も金銭の処理に関する不正が起きることがないように、管理職を中心にして、教職員への働き掛けを継続していく。	教職員	前期	75	25	0	0	100	100.0%
	23 適正かつ効率的な事務処理 (取組指標) (100%、90%以上、80%以上、80%未満)	⑰ 期限を厳守した文書処理	A	◇教務主任が週予定表の中に、外部への提出文書の締め切りは教務主任が週予定表に記録し提出忘れがないようにしている。しかし、期限ぎりぎりになって慌てる様子も見受けられるため、計画的な事務処理を徹底したい。 ◆職務に対して責任を持ち、一人一人が先を見通した計画的な業務執行を心掛けるとともに、管理職を中心に、チェック体制を強め、速めの処理を行えるように声掛けをしていく。	教職員	前期	65	35	0	0	100	100.0%
	24 組織的に取り組む校務分掌 (取組指標) (100%、90%以上、80%以上、80%未満)	⑱ 報告・連絡・相談の習慣化	A	◇生徒指導面での情報共有や連携については、日誌やケース会議を行うことで、組織的に対応できつつあるが、早期対応や事前の取組には課題が残っている。 ◆教育委員会をはじめとする、関係諸機関との連携を密にし、昨年同様は後退であることをモットーに新鮮な気持ちで企画・運営を行いたい。	教職員	前期	65	35	0	0	100	100.0%
25 信用失墜行為の根絶 (取組指標) (100%、90%以上、80%以上、80%未満)	⑲ 信頼される教職員集団を目指し、信用失墜行為の根絶に努めた。	A	◇スクールコンプライアンス研修を行い、教職員に求められる資質能力、基本姿勢、行動を教育公務員として常に意識することが徹底できている。 ◆目指す職員室像を○誠実さ、○しなやかさ、○批判的思考、○想像力の4つとし、信頼される教職員集団を目指したい。	教職員	前期	80	20	0	0	100	100.0%	
考察・改善	前期		後期									
	【学校運営協議会委員より】 ○改善に向けて ・ 問題や課題が山積している中で、様々な工夫や活動を実践しており感謝している。 ・ よりよい職場環境をつくり、成果を上げてほしい。 ・ 働き方改革は道半ばであり、もう少し改革できるところがあるのではないかとと思う。超過勤務の過労死ラインは、一般に1カ月当たり80時間と言われている。教職員の健康な体と心があってこそ、生徒に必要な十分な指導ができる。各種業務の効率化を進め、働き方改革を一層推進してほしい。 ○ 生徒一人一人を大切に、一人一人が成長できる学校運営をしていきたい。そのために教職員同士が助け合い、支え合える関係を築き、報告・連絡・相談を通して働きやすい職場環境づくりに努めたい。 ○ すべての項目において、高い自己評価となっている。教職員全体が不正を許さず、教育公務員としての自覚を持って日々職務を遂行してコンプライアンスの遵守を徹底していきたい。											